

## 17 平成18年度千臨技微生物検査精度管理-分離・同定-

○中沢武司(順天堂浦安病院) 石川恵子(浦安市川市民病院) 伊東高広(社会保険病院) 宮部安規子(千葉大学病院) 高橋弘志(君津中央病院)

【目的】糞便からの起炎菌(エルシニア菌)を確実に分離・同定できるか、また病原大腸菌検査法の現状把握を目的とした。

【方法】*Yersinia enterocolitica*の糞便からの臨床分離株と*Escherichia coli*のATCC25922株を混合し、スワブの浸したものを試料とした。分離同定を実施する際の情報として臨床情報、検査結果等の患者情報を付記した。

【評価方法】*Y. enterocolitica*は*Yersinia*属に同定されていたものをA評価とし、それ以外の菌種はC評価、B評価は設定しなかった。*E. coli*について今回はあえて評価対象とした。3類感染症である腸管出血性大腸菌を否定するため、ベロトキシンを実施した施設をA評価、*E. coli*以外の菌種はC評価とした。

【結果】分離・同定の評価対象施設は41施設あり、*Y. enterocolitica*については39施設がA評価、2施設がC評価であった。エルシニア菌用の分離培地を使用した施設が21施設であった。*E. coli*についてはベロトキシンを実施した12施設をA評価、*E. coli*以外の菌種の2施設がC評価とした。

【まとめ】エルシニア菌については2施設を除き正しく分離同定がなされていた。約半数の施設でエルシニア菌用の選択培地が使用されていなかったが、菌量が少ない場合は分離が難しい。*E. coli*について今回は問題提起という形をとった。病原大腸菌検査法については微生物検査担当技師にとって検討が必要な課題である。活発な議論を期待する。

連絡先 047-353-3111

## 18 平成18年度千臨技微生物検査精度管理-同定・感受性試験-

○伊東高広(千葉社会保険病院) 宮部安規子(千葉大学病院) 石川恵子(浦安市川市民病院) 中沢武司(順天堂浦安病院) 高橋弘志(君津中央病院)

【目的】血液および便から分離されたサルモネラについて、中間報告、菌名の記載方法、代表薬剤の解釈についての調査することを目的とした。

【方法】血液および便からの分離菌として*Salmonella* Paratyphi-Bを使用し、各施設にて日常行なっている方法で同定・感受性試験を実施し、各施設で報告する薬剤の中で最も重要と思われる薬剤について3つ選択し、中間報告・同定・感受性試験についての評価をした。

【評価方法】中間報告では、培養開始日より3日以内をA評価、4日目をB評価、5日目以上をC評価とした。同定試験では、2類感染症(*Salmonella* Typhi、*Salmonella* Paratyphi-A)を否定するサルモネラの記載をA評価、2類感染症を否定していないサルモネラ、または*Salmonella* Paratyphi-B以外の菌名の記載をB評価、その他の菌名の記載をC評価とした。感受性試験では、ニューキノロン系薬の報告があればA評価、第1世代・第2世代セフェムおよびアミノグリコシドの報告が含まれていればC評価とし、それ以外をB評価とした。また、MIC値についての評価は行なわなかった。

【結果】中間報告では、41施設中A評価は39施設(95.1%)、B評価は2施設(4.9%)であった。同定試験では41施設中A評価は36施設(87.8%)、B評価は4施設(9.8%)、C評価は1施設(2.4%)であった。感受性試験では、報告のあった40施設中A評価は36施設(90.0%)、B評価は2施設(5.0%)、C評価は2施設(5.0%)であった。

【まとめ】中間報告では4日目の報告が2施設あった。同定試験では2類感染症を否定していないサルモネラの記載が4施設、誤同定が1施設あった。感受性試験では、ニューキノロン系薬の報告は37施設、第2世代セフェムの報告が2施設あった。今回の精度管理が今後の日常検査の参考になれば幸いである。

連絡先 043-261-2211